

旧本田家住宅だより

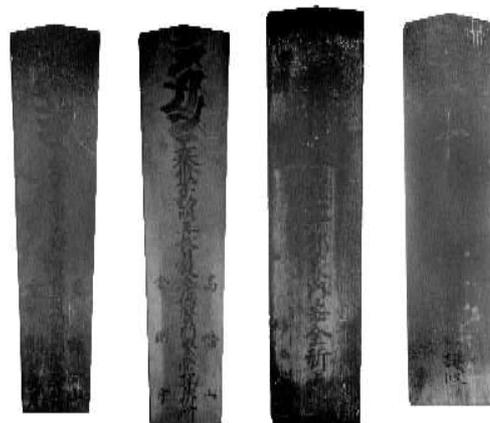
Vol. 2 2022.3



祈祷札が発見されました！

主屋内部の解体工事を実施し、令和4年1月にヒロマの天井のベニヤ板を剥がしたところ、竿縁天井が見えました。改め口を開けて天井裏を覗いてみると、なんと祈祷札が4枚もみつかりました。

旧本田家住宅では、享保16（1731）年の祈祷札が見つかっており、それより前に建てられたとされています。祈祷札は建築年代を明らかにする上で重要なものです。そこで発見された祈祷札を赤外線撮影してみると残念ながら年号は確認できませんでしたが、「金剛寺」「高幡山」などの文字を読み取ることができました。享保16年よりも古い祈祷札は発見されるのでしょうか。今後の調査に期待が膨らみます。



発見された祈祷札の赤外線写真



享保16年の祈祷札発見場所



ヒロマの竿縁天井
(改め口を開けている状態。平面図の 部分)

＊ 本田家旧蔵資料 ＊ その1 「大観書屋」扁額

この扁額は「幕末の三筆」(著名な3人の能書家)の1人である市河米庵が、第10代当主 本田昂斎(ごうさい)に贈ったものとされています。昂斎は米庵の書塾に入門しており、江戸の著名な文人たちと広く交流関係をもっていました。そして「大観書屋(たいかんしょおく)」とは旧本田家住宅のことを意味しています。第9代当主 本田随庵(ずいあん)が称した号に「大観堂」とあり、これがのちに本田家の屋号となります。



(撮影：佐治康生氏)